蔵王嶽
広報
かじき
No.367
昭和60年5月号
発行 加治木町
編集 総務課
題字 東町長

高岡公園への遊歩道

五月晴れ

「五月晴れの空にコイのぼりが泳いで……」

五月晴れというのは、しとしとと降り続く五月雨（さみだれ）の合間の晴れた天気を言い、言葉の由来からすると旧歴の五月であって、現在の暦では六月に当たります。

しかし、最近は、五月晴れは、新暦五月の青空を指す言葉として用いられるようになりました。

理屈はともあれ、五月の晴れた日はさわやかで、自然に親しむにはもってこいの季節。

野山に足をのばして、新緑を見たり、野鳥の声を聞くのも楽しいものです。

晴れた日には戸外に出てみませんか。

◈人口 22,830人(△338)男10,778人(△168)女12,052(△170)世帯数 7,921(＋4) 60.4.1現在（ ）前月比

りに満ちたふるさとづくり

60年度一般会計予算は41億2千万円

３月12日から29日まで開かれた「第１回定例町議会」で、60年度の予算が決まりました。一般会計は41億２千万円、水道事業を除く５つの特別会計の総額は19億3,515万７千円で、一般会計と合わせた予算総額は60億5,515万７千円となり、前年度に比べて３億9,202万９千円増加しています。

一般会計予算の内訳

投資的経費は二億六千万円あまり増加

一般会計予算額は、四十一億二千万円で、五十九年度と比較すると四億四千百万円（十一・二パーセント）の増となりました。

歳　入

歳入の内訳をみると、町税など自主財源は十九億九千八百六十二万一千円で予算の四八・五パーセントを占めており、一方、国や県への依存財源は二十一億二千百三十七万九千円で予算に占める割合は五一・五パーセントとなっています。

自主財源のうち町税は十三億二千九百三十八万四千円で、五十九年度に比べ一億七百九十万七千円（八・八パーセント）増加しています。

依存財源の主なものは、地方交付税八億六千八百万円、国庫支出金五億五千六百三十九万六千円、町債（町の借金）三億五千百三十万円、県支出金二億三千二百四十八万三千円などで、五十九年度と比較すると一億八千七百二十五万円（九・七パーセント）増加しています。

木田本通線を整備

歳　出

歳出の内訳を〝性質別〟に分けてみると、普通建設事業費や災害復旧事業費などの投資的経費が十三億二千九十七万円で、五十九年度に比べ二億六千百七十八万九千円（二四・七パーセント）増加しました。

また、人件費などの義務的経費は十六億八千百三十六万七千円、物件費などのその他の経費が十一億一千七百六十六万三千円となっています。

歳出の内訳を〝目的別〟に分けてみると、教育費が五十九年度に比べ三億二千四百七万三千円増加し、九億二千四百七万四千円となり、歳出予算総額の二二・四パーセントを占めています。

次いで、民生費六億七千百五十二万九千円（十六・三パーセント）、土木費六億八百四十一万七千円（十四・八パーセント）、総務費四億六千三百五十五万円（十一・三パーセント）などの順となっています。

ぬくも

〈施策の重点〉

1. 地域基盤の整備促進
2. 農林漁業生産基盤の整備促進と商工業の振興
3. 社会福祉、保健衛生の充実、特に健康増進と生きがい対策の推進
4. 教育文化の振興
5. 町民生活の安全確保
6. 広域行政の推進

特別会計

保険給付費は五億二千九百万円

国保事業

国民健康保険事業は、五十九年十月から発足した退職者医療制度に伴う療養給付費等の療養諸費四億七千八百五十三万一千円を含む保険給付費五億二千九百十三万五千円をはじめ、今年度から新たに人間ドック補助五十万円も計上し、総額は九億八百二十七万一千円となっています。

三百二十世帯へ給水

簡易水道事業

簡易水道事業は、五十四年末に給水を開始してから、既に六年目を迎えており、およそ三百二十世帯へ給水しています。

本年度の予算総額は一千三百三十万二千円で、前年度に比べ二百九十六万七千円の増となっています。

歳出の主なものは、給水のための電力料等百八十四万五千円、滅菌機の取替工事費二百万円、公債費八百三十一万三千円などとなっています。

処理戸数は三百戸に

地域下水処理事業

地域下水処理事業は、五十七年六月供用開始以来、順調に事業を遂行しており、六十年度の処理戸数は、四月入居の県営住宅分三十二戸、分譲住宅三十戸程度を含め約三百戸を見込んでいます。

予算総額は二千五百八十九万七千円で、歳出をみると、維持管理のための電力料、修繕料、医薬材料費等八百十三万五千円、汚泥搬出手数料等百十万三千円、沈澱砂吸揚ポンプの取替工事費二十五万円などを計上しています。

地域下水処理場（新生町）

九億八千五百万円を計上

老人保健医療事業

老人保健医療事業は、医療給付費九億七千五百五十三万一千円を含む九億八千五百八十九万二千円を計上しています。

加入促進を図る

農林業労働者災害共済事業

町農林業労働者災害共済事業は、今年で五年目を迎えました。

今年度も、農林業従事者の理解と協力を得て、加入促進を図りながら、事故防止についても指導してゆきます。

予算総額は百七十九万五千円で、うち災害補償費は百三十五万円計上しています。

昭和60年度 主な事業と予算（一般会計）

単位：千円

議会費 〔85,433〕	2.1%	〔議会活動に必要な経費〕
総務費 〔463,550〕	11.3%	〔庁舎便所改修工事 8,000〕〔総合振興計画策定業務委託 5,000〕〔町地下水源調査委託 3,000〕〔交通安全施設工事 3,140〕〔国勢調査費 4,618〕
民生費 〔671,529〕	16.3%	〔南庁舎の自動ドア工事 2,000〕〔老人福祉 26,768〕〔福祉センター運営費 9,754〕〔児童手当37,200〕〔保育所運営 199,560〕
衛生費 〔267,784〕	6.5%	〔乳幼児医療費 2,640〕〔公衆浴場運営費 13,993〕〔健康づくり推進費 3,215〕〔保健事業(厄年検診ほか)13,246〕〔塵芥処理費105,476〕〔保健センター冷暖房機器 5,795〕
労働費 〔103,172〕	2.5%	〔失業対策事業費89,382〕
農林水産業費 〔335,097〕	8.1%	〔農業振興資金利子補給補助 2,000〕〔養蚕団地育成対策事業補助 1,500〕〔小規模土地改良事業補助 8,000〕〔十三塚原土地改良区運営費補助 2,241〕〔肉用牛導入事業補助 300〕〔水田利用再編対策事業費 1,444〕〔農村振興運動事業費 804〕〔生活改善センター運営費 1,888〕〔中田工区ほ場整備工事26,500〕〔地久里地区かんがい排水工事ほか10,670〕〔農業構造改善事業費63,535〕〔農地保全整備費（柿ノ木田地区ほか）33,425〕〔作業道（平谷線） 8,640〕〔並型漁礁設置 6,136〕
商工費 〔25,493〕	0.6%	〔商工会補助 3,700〕〔商工振興貸付金など 7,000〕〔町観光協会補助 480〕〔県労働者信用基金協会貸付金 3,000〕
土木費 〔608,417〕	14.8%	〔道路維持費 4,750〕〔道路新設改良費（小山田線、永原市野線ほか） 135,172〕〔道路舗装費 8,000〕〔臨時地方道整備事業費（城井手向線ほか）36,000〕〔錦江橋塗装工事 5,500〕〔橋梁新設改良費（舟木歩道橋ほか）49,000〕〔天神排水改良工事24,000〕〔準用河川改修費（塩入川） 9,000〕〔街路事業費（木田本通線） 45,003〕〔住宅宅地関連公共施設整備促進事業費（仮屋馬場通線） 159,003〕〔公園整備費（小烏公園ほか）9,903〕〔住宅管理費44,367〕
消防費 〔168,416〕	4.1%	〔防火水槽ほか 4,200〕〔小型動力ポンプ付積載車 2,500〕
教育費 〔924,074〕	22.4%	〔育英奨学資金貸付金 3,912〕〔小学校管理費 64,179〕〔加治木小学校建設費 524,959〕〔中学校管理費35,078〕〔幼稚園管理費33,825〕〔幼稚園就園奨励費補助11,821〕〔公民館費 6,524〕〔図書館費 3,306〕〔郷土館費 3,335〕〔文化財保護費 1,088〕〔保健体育総務費27,330〕〔体育施設費 5,007〕〔学校保健費 9,673〕〔学校給食共同調理場費81,546〕

※グラフは「予算に占める割合」

行政連絡員百十五人に辞令

町行政の橋わたしをお願いする行政連絡員百十五人が決まり、辞令交付式が四月二十六日福祉センターで行われました。

今年一年間、町政及び自治会発展のため、よろしくお願いします。

城東地区　一一二四世帯

自治会名	氏名	世帯数
日木山黒川	木下　和俊	五一
日木山団地	撰　正敦	四五
天神	上村　直	一一五
反土黒川	日高　為夫	七二
東諏訪	川井田ヨオ子	一三〇
西諏訪	伊藤　貞輝	一〇一
吉原	市来原盛五	二三九
東吉原団地	日高　国雄	六七
小陣	浜田　忠治	六四
下新道	堀切　利男	一四四
里ノ上	犬童　初男	一九
里ノ下	山元　英喜	七七

城南地区　七八六世帯

新町	別府ユキノ	四二
垂ノ口	朝隈　純隆	一三〇
江湖	吉元ヨシ子	三〇
今町	竹内　親男	一四二
上浜	松田　繁美	九六
中浜	亀井　政夫	七八
下浜	米良　紀子	一一五
蒲生田(一)	有馬　俊正	七
蒲生田(二)	笹山　義弘	一六
西町	尾上　辰二	二五
端山	内田　薫	一〇五

城西地区　六六六世帯

柳田	前山トシ子	二一〇
於里	永井　準	一三〇
新富団地	佐川　茂	四六
田中	櫨山　大平	一九〇
竹下	入部　薫	九〇

城北地区　一二六七世帯

西反土前	東脇　正徳	二九
西反土後	今薗　国男	六九
萩原	城　正守	二〇〇
高井田	津崎チエ子	二〇一
春日団地	東　一郎	一二八
城	岩澤かすみ	一一
口ノ町	石野キミ子	四〇
内原田	南薗　義久	一〇八
札立	仮屋　義廣	一四四
川原	福薗　國治	二八
棚目	屋所　栄	四〇
蔵王団地	堀江　東平	一九七
空港団地	上原　正昭	七二

錦江第一地区　一二一八世帯

向江町	田中　高雄	八五
東塩入	村下　久信	一三五
中塩入	岡山　秀樹	五五
南塩入	小椋　直吉	八六
西塩入上	久保　金蔵	八八
西塩入中	天利　勇	三八
西塩入下	井之口　操	九五
江口団地	小野　進	七一
西江口団地	山之内　敏	一〇四
岩原東	岩元　辰雄	一五一
岩原西	中元カズ子	三一〇

錦江第二地区　六〇二世帯

浜村	増田　昌弘	一〇七
須崎	宮路　芳彦	二三八
豊町	有馬　純明	一五〇
弥勒	平田　豊文	一〇七

錦江第三地区　七一七世帯

中央	大山　孝子	六九
小鳥	池田　公子	九〇
赤坂	徳田　秀人	一五三
原ノ門	原口　一郎	一三
新中	堀之内　仁	五四
西ノ原	浜元　一男	五二
楠園	田島　克己	一〇〇
中福良東	室屋　虎男	三二
中福良後	末吉　仁	五九
上木田	榎谷　達	九五

永原第一地区　二〇三世帯

永原	福森　清美	七〇
丸岡	中森　初男	一三
隈原上	堂森　トシ	二九
隈原下	榎谷　秀清	一九
市野々	濱田　信	五
上嶽	樗木　逸	二七
下嶽	山口　正人	二八
提水流	川床　操	一二

永原第二地区　一四九世帯

菖蒲谷上	向江　親男	二一
菖蒲谷下	外村　正子	四一
桑迫	木下　正治	二八
曲田	曲田　隆徳	一五
桃木野	楠元　正男	二〇
東ヒナバ	坂元　満義	九
西ヒナバ	服部　義盛	一五

辺川地区　九九世帯

辺川下	小宮路　久	四五
辺川中	神園　政範	一七
鶴原	田代　快男	二五
市野	外園　実志	一二

竜門東元地区　一七四世帯

布越	外村　鉄哉	四一
井手向	井手向実夫	二一
高崎	吉村　実	一一
岩穴口	下津佐キヨ子	一五
徳永	前田キクノ	一九
小田倉	宮脇　利雄	一九
迫上	吉村　孝之	一二
迫下	冨秋　辰己	二五
御狩山	川内　春男	一一

竜門西元地区　一三四世帯

麓	藤田　昇二	一四
毛上	篠崎　秋明	七〇
茶碗屋	桐原　雅孝	二七
伊部野	脇　英雄	二三

竜門西浦地区　一三一世帯

石野	猪目　喜年	一九
鞍掛	猪目シズ子	一五
永山	児玉　三郎	一五
下東木	地久里良夫	一七
上東木	日高　繁	一二
赤谷	地久里敏夫	一七
西浦西	石原　功	三二
地久里	鶴田　栄	四

竜門東浦地区　一一八世帯

上川内	川原　忠	九
川内	東川内義治	二六
市来原	日高　春雄	四五
新開	小原　侃	一五
宮田ケ平	坂元　利夫	二三

中野地区　一〇五世帯

中野	坂元　辰夫	四〇
楠原	山下　宏	二四
弓削	大野　盛次	九
長谷	冨永　正則	三二

辞令を受ける増田さん（浜村）

石原さんら3人を委嘱

県交通安全協力員

県交通安全協力員に石原五男さん(上木田)下小牧千春さん(札立)福元司さん(迫上)の三人が県知事から委嘱され、四月二十二日町長室で辞令と協力員証が交付されました。

三人は、これから一年間町が行う交通安全活動に協力し、街頭立唱指導などに従事され交通安全思想の普及に努められます。

左から下小牧さん、石原さん、福元さん

伝統の教育に新しい息吹き

町教職員就任式

四月の異動で町内の小・中学校に着任された二十四人の先生を歓迎し、激励する町教職員就任式（教育委員会主催）が、四月十二日福祉センターで行われました。

乙須教育長は「加治木の教育は古い伝統の上に、特色ある教育を積み上げようとしています。教師も一人ひとり特色ある教師になって欲しいと思います」と式辞を述べました。

また、東町長は「他町でいっしょうけんめい培ってこられたものを生かし、加治木の教育に新風を吹き込んでください」と、下猶議長は「知・徳・体バランスのとれた児童・生徒の育成に努めてください」と歓迎の言葉を述べました。

式では、先生方に普通の大きさの約五倍もある〝特大の加治木まんじゅう〟がふるまわれ、先生方は「給食を食べてこなければよかった」といいながらも口いっぱいにほおばり、加治木の味をかみしめていました。

新しく着任された先生は、次のかたがたです。（敬称略）

▽柁城小学校
教諭　早川敏郎　栗野小から
　　橋口三香　松元小から
　　前原　賢　万膳小から
　　児玉敦雄　上場小から
　　山下和俊　八幡小から
　　戸森茂男　建昌小から
　　吉永恒文　新規採用
　　沖久光代　新規採用

▽錦江小学校
校長　本田六夫　枕崎小から
教諭　仮山好子　帖佐小から
　　福本昌弘　西伊敷小から
　　知識アツ子　新規採用

▽竜門小学校
教諭　上村　慎二　田尻小から
　　原之園健児　財部小から

▽永原小学校
教諭　恒吉宏一　山下小から
　　鮫島誠子　蒲生小から
事務　岡崎博隆　井之川中から

▽加治木中学校
教頭　釜付清隆　宇都中から
教諭　家村謙造　吉松中から
　　岩元神志　横川中から
　　竹原達人　陵南中から
　　竹下恵子　重富中から
　　藤田きよみ　新規採用
　　大窪是男　柁城小から

大きく口をあけて……

赤ちゃんの成長を祈る

中福良・隈原のひなじょまつり

赤ちゃんの健やかな成長を祈る月おくれのひなまつり〝ひなじょまつり〟が四月三日、中福良や隈原・楠園の自治会で行われました。

中福良では、田島由紀子さんを大頭に、吉岡みきちゃん（四歳）ら二十八人が晴れ着姿で家々を回りました。

勝山則文さんの家でも、練習した歌や踊りを披露し、長男・隆文君の健やかな成長を祈りました。

踊りを披露（中福良のひなじょまつり）

青少年の豊かな心を育てよう ㉗

青少年教育

鹿児島・加治木の流れ（その8）『変則小学校（第7・8郷校）』

安永二年（一七七三年）島津重豪は文武教育の統一を目指して、山下町に造士館と演武館を併設しました。設立以降教科の中心は「朱子学」でしたが、幕末に改革され、明治二年（一八六九年）に漢学局・国学局・洋学局を分離し、明治三年学則制定から明治五年学則頒布のころ造士館は本学校となり、英語・仏語・漢学・数学等が専門に教授されました。

鹿児島外には第一郷校が垂水に、第二郷校が指宿に、第三郷校が入来に、第四郷校が樋脇等にそれぞれ設置されました。

加治木の郷校「毓英館」は第七郷校と第八郷校に分かれ、第七郷校は、「西の丸」（現在の柁城小学校附近）に、また、第八郷校は毘沙門町通り会所跡（現在の性応寺附近）に設けられました。

教科は毓英館時代のままの修身・読方・作文・習字・算術・洋学の六科でしたが、ただ年長の希望者には高度の洋学・珠算をも受講させました。

明治四年には、鹿児島から南八太郎を招聘し、筆算も取り入れました。

また変則小学校（郷校）と本学校（造士館）は、鹿児島外の郷校の課程を終了した後、本学校により高度な内容を修める制度を設けていました。

木佐木新・中摩正之助・隈元俊介は本学校で専修後帰郷し洋算の教師となり、また、洋学・数学の伊藤世傑・中摩順蔵・枝元長辰も本学校の専修生となりました。英語の教員としては勝目孫四郎があたり、漢字教師は鳥居奉哉・落合半蔵・中摩堅助・市来新助・本田次左衛門などが、習字の教師としては牧央助・竹下孝五郎などが当たりました。

県内の各郷校の生徒数は、百人内外と推定され「日本教育史資料」によると、県内の庶民教育の場としては寺小屋が十九、私塾が一つしかなく九州全体でも僅か一%で、正則小学校を設けられず、郷校を変則小学校として誕生させました。

「食生活を改善しました」

岡山クニさんが体験発表

健康づくり推進大会

「自分の健康は自分で守ろう」と、婦人やお年寄りなど約二百五十人が参加し、町健康づくり推進大会が三月二十八日、福祉センターで開催されました。

大会では、クモ膜下出血から回復し健康な毎日を過ごされている岡山クニさん（西塩入上・七七）が「五十七年に突然激しい頭痛に襲われ、五日間意識不明の状態が続きましたが、適切な処置により元気になりました。その後、成人病にならぬよう食生活を改善しました。例えば、主食を、はい芽米にかえ、大豆製品は必ず毎日なにか取るようにしています。また、きのこの千切りをみそ汁に入れるのも日課としています。運動は、病気で休んだ時を除き、二十年間毎朝ラジオ体操を続けています。今、指の運動を兼ね、老人クラブで大正琴を練習中です」と体験発表を行いました。

岡山クニさん

また、松田道子さんは、須崎自治会で健康体操を七年間指導されてきた体験をもとに「腰痛のひどかったお年寄りが〝立ったまま靴下がはけるようになった〟と喜んでおられます。また、体操の後、お茶を飲んだり仲間づくりにも役立っています。健康体操のすばらしさを多くの人に知ってもらいたい」と話されました。

松田道子さん

希望ケ丘病院の大久保院長は、「中高年の健康管理」と題し「中高年とは五十代を中心とした年齢の人たちで、この年代は健康の曲がり角に当たり、脳卒中や心臓病などの病気も増えてきます。規則的な生活を送る事が健康に大きく左右しますので、手を使う、声を出す、毎日歩くことを心がけ、上手に食べて、上手に年をとり長生きしましょう。健康づくりは他人まかせでなく、個人の問題です」と講演され、参加者は熱心に聞き入っていました。

充実した人生を送るため学習を

社会教育学級開講式

充実した人生を送るため、町民の生涯学習を推進しようと、園芸や書道など十三の社会教育学級の開講式が四月二十六日、福祉センターで行われ、学習意欲に燃える三百九十九人が出席しました。

社会教育学級は、中央学級が一般学級（薬草園芸や狂句など六講座）と高齢者学級（園芸や書道など五講座）に分けて開設され、また、竜門地区では民踊と園芸の講座を行うことにしています。

昨年から開講した「薬草園芸」教室（講師・上萩大治氏）は今年も好評で、健康づくりも兼ねてか六十三人が受講されます。

また、専門的な学習だけでなく七月と十一月には一般教養講座も計画されています。

生きがいを求めて

高岡公園への遊歩道を補修

上木田の隈姫神社から、高岡公園をつなぐ遊歩道の補修が、四月十九日 吉村次男さん、石原五男さん、下楠園正昭さんら三人と、経済課職員の手で行われました。

この遊歩道は、町民の森造成事業により五十五年に設けられ、全長は五百二十メートルです。

この日は、行楽シーズンを前に遊歩道を安全に利用してもらおうと実施したもので、町有林の間伐材約四十本を使って、古くなった階段の補修や、周辺の清掃を行いました。

高岡公園は、これからサツキの美しい季節を迎えます。

休日、家族連れで遊歩道を歩いてみませんか。

遊歩道の補修

高岡公園に電話を設置

町民の憩いの場として活用されている高岡公園に、公衆電話が設置されました。

電話は、駐車場の一角にあります。ご利用ください。

21人から89万円の寄付が

町育英奨学基金

高校や大学に進学する人や、在学生などで経済的な理由により修学困難な人に貸し付けを行う目的で設けている町育英奨学基金に、五十九年度は二十一人の方から八十九万円の寄付金が寄せられ、年度末の育英基金の積み立て額は八百九十九万五千六百三円となりました。

一方、奨学資金は、現在大学に在籍している十六人に五百二十二万円、すでに高校・大学を卒業して社会人になっている三十七人に九百八十万四千六百円の貸し付けを行っています。

このうち、五十九年度は三十七人から二百五十二万七千六百円（現年度分百九十五万五千六百円、繰り上げ分・三人、五十六万二千円）が償還されました。

初の公認1種審判員が誕生

今吉昭男さん（於里）

於里の今吉昭男さんが「日本ソフトボール協会公認一種審判員」の資格を、三月二十二日取得され、町内では初めての一種審判員が誕生しました。

今吉さんは、四十五年の町ソフトボール協会結成当時から審判員をされており、姶良西部の審判長も六年間務められました。

現在は、町ソフトボール協会審判部長として活躍されています。

今吉昭男さん

全日本勤労者弓道大会に出場

加治木町役場チーム

第四回県下職域勤労者弓道大会で加治木町役場チームが準優勝し六月二十二、二十三日に山梨県で開催される「全日本勤労者弓道選手権大会」の出場権を獲得しました。

大会は、十五チーム、七十五人が参加して四月二十一日、鹿児島市の県武道館弓道場で行われ、役場チームは、同じ二十九中の鹿児島鉄道管理局チームを競射の末破り、初めての全国大会出場権を得ました。

全国大会に出場する役場チームのメンバーは、次のかたがたです。

氏名	（職　場）
猪目　明	（農業委員会事務局）
長井利弘	（姶良郡西部衛生処理組合）
猪目忠義	（土木課）
杉田淳平	（監査事務室）
若松敏弘	（福祉課）
竹下　宏	（教育委員会庶務課）

全国大会に出場する役場チーム

19チームが熱戦を展開

春季ナイターソフトボール大会

春季ナイターソフトボール大会が、四月十四日から二十二日まで、町営グラウンドで行われ十九チーム（Aクラス・八チーム、Bクラス・十一チーム）が連夜熱戦を展開しました。

四月十四日に行われた開会式では、五十六年から四年間、町ソフトボール協会長として、協会の発展に尽力されてきた高山卓爾前協会長（西塩入下）に表彰状が贈られました。

決勝戦の結果は次のとおりです。

〔Aクラス〕

球友	3	0	2	1	0	0		6
竹之内水産	2	3	2	0	1	×		8×

〔Bクラス〕

ジャガーズ	8	2	0	0	4	0		14
プリンス	0	0	2	0	0	3		5

Aクラス優勝の竹之内水産

Bクラス優勝のジャガーズ

高山卓爾前協会長を表彰

高山前協会長

人権擁護委員制度をご存知ですか。

六月一日は、人権擁護委員法が施行された日です。

日本が戦後新しく生まれ変わったとき、何よりもまず国民の基本的人権の擁護と人権思想の普及高揚が強く求められ、基本的人権の尊重を基調とした日本国憲法が制定されました。

このような背景の下に、昭和二十四年六月一日に人権擁護委員法が施行され、国民の基本的人権を擁護し見守る、いわば民間人による人権の番人の機関が誕生したのです。これが人権擁護委員制度の始まりです。

人権は、人間が平和に生きて行く上で、最も大切な権利です。自分だけでなく、あなたも私もみんな人権が尊重されなければなりません。つまり人権は共存するものなのです。

お互いに人権を守って明るい社会をつくることが、私たちの願いです。

町内の人権擁護委員は、次のかたがたです。

お気軽にご相談ください。

秘密は固く守られます。

宮城俊治　港町一三一番地一二一（電話六三―三七八七）

田中重男　仮屋町六四（電話六二―二二六〇）

中摩多美子　反土二七五六（電話六二―二七六八）

原ノ門公園が完成

ジャングルジムなども設置

町が五十九年度事業として整備を進めていた「原ノ門児童公園」（新生町）が、三月に完成しました。

原ノ門公園は広さが二千二十六・二四平方㍍（約六百十三坪）で、公園内にはブランコや、鉄棒、ジャングルジムなどの遊具やトイレなどが設置されています。

総事業費は一千百万円です。

町内の公園は、これで地区公園一か所（高岡公園）、児童公園が五か所（天神、網掛川、実窓寺、赤坂、原ノ門）、幼児公園が二か所（錦江一・二）となりました。

完成した原ノ門公園

「シートベルトをつけてネ」

加治木まんじゅうをサービス

〝春の全国交通安全運動〟期間中の四月十一日、交通安全協会婦人部や警察、総務事務所の職員ら四十人が、国道十号線でドライバーに加治木まんじゅうをサービスしました。

これは「シートベルトを着用し、加治木まんじゅうのようにソフトで、まろやかな安全運転を心がけてください」と呼びかけ、一千個の加治木まんじゅうを配ったもので、受け取ったドライバーの中には、あわててシートベルトをつける姿も見られました。

交通事故は、ちょっとした油断から起こります。

運転中は必ずシートベルトを着用し、事故防止に努めましょう。

安全運転を呼びかけ

あなたの住んでいるところは安全ですか

がけ崩れ

「がけ崩れ」は、勾配が三十度以上の斜面に多く発生しています。割れ目が多かったり、水が流れていたり、上部がせり出しているようながけは、崩れやすいがけといえます。

がけ崩れは、地すべりと同じで、雨ばかりでなく、地震でも起きます。

土砂災害なんて無縁のもの、被害に逢った人のほとんどがそう思っていたはずです。

ところが、雨がしばらく続いたある日、突然に――。

がけの周囲で、危険だなと思われる箇所があるときは、役場都市計画課にご相談ください。

3月に起こったがけ崩れ（西ノ原）

がけ地近接等危険住宅移転事業

がけ地の崩壊、土石流、なだれ及び地すべりなどによって、町民の生命に危険を及ぼす恐れのある区域内に建っている危険住宅を安全な場所に移転を促進するため、国県及び町が助成を行う制度です。

危険住宅の撤去費及び移転などに要する費用（一戸当たり補助限度額六十三万円）や、危険住宅に代わる住宅の建設（購入を含む）のため、金融機関から融資を受けた場合、借入れ金の利子相当額（一戸当たり補助限度額二百五十六万円）が助成されます。

詳しくは、役場都市計画課までお問い合わせください。

危険住宅は

昭和四十六年八月三十一日以前に建設された住宅で、かつ「がけに近接する地域」内に建設されている住宅をいいます。

なお「がけ」とは、水平面に対して傾斜度が三十度以上であり、かつ、その高さが二㍍をこえる土地をいいます。

「がけに近接する地域」とは、がけの上にあってはがけの下端から、がけの下にあってはがけの上端から、それぞれ、そのがけの高さの二倍以内の水平距離の範囲内の土地をいいます。（右図参照）

厚生大臣表彰を受彰

外村豊志さん（下　嶽）

民生委員・児童委員として、永年地域の福祉向上に尽力されてきた外村豊志さん（下嶽）に、厚生大臣から表彰状が贈られ、四月十五日東町長から伝達されました。

外村さんは、昭和四十年の十二月から六期・十八年もの間、民生委員・児童委員を務められ、福祉の増進に大きく貢献されてきた功績が認められたものです。

外村さんは「これからも、地域のために出来る限りの努力をしてゆきたい」と話されました。

表彰状を受ける外村さん

横断歩道の渡り方などを指導

交通安全教室を開催

子どもたちの交通安全意識を高めようと、錦江小学校と川野保育所で四月十五日、交通安全教室が開かれました。

川野保育所では、県警の交通巡視員原田あつ子・田畑京子さんの二人が、腹話術の人形『ぜんちゃん』を使って、横断歩道の渡り方や「道路には急に飛び出さないでネ」などと指導し、園児たちは、舞台に設けられた横断歩道を使って、実際に「左右をよく見て、手を上げて横断歩道を渡る」練習を元気よく行いました。

横断歩道は手を上げて……

薬草知られざる効き目 ⑳

サンショウ

サンショウを山からとって来たといえば、必ず「そんた、山ざんしゅ」といわれます。

サンショウは、ミカン科の落葉低木で日本各地の低い山地に自生しています。食用にされるのは「とげが対生」しており、俗に山ザンショウといわれるのは「とげが互生」しています。

前者は、香気がすばらしく、薬効もすぐれているので、人家の周辺に植栽され、縄文時代から使われていました。古事記や日本書紀にもその名がでてきます。

このサンショウも「赤芽」と「白芽」があり、春先伸びてくる新芽が白みを帯びているのが、香りも味もソフトなようです。

よく木市で「庭のサンシュノキ」とラベルがありますが、それはミズキ科のサンシュウで、江戸時代朝鮮から渡来したものです。平家の落人部落・椎葉の民謡「ひえつき節」のサンシュノキは、このミカン科のサンショウの木ではありますまいか。

雌雄異株ですが、六月中旬サンショウの実を、つまんでつぶれるころちぎって一週間ほど塩漬けにした後、一週間ほどかげ干しにする。

ガラスびんに保存し、折おり唐辛子の空びん一杯ほど粉末にします。

魚・肉料理に一ふり二ふりしますと、食膳がさわやかになります。

冷え症や、胃腸が弱くガスのたまる人は、果皮を煎じるか、粉末にして飲む。薬酒にして飲んでも良い。

粉末をむし歯に入れて、歯痛止めに、木皮をきざみ〝つくだ煮〟にして毎日少しずつ食べると回虫の予防になります。

皮つきのまま摺粉木に使い、杖にしても最上である。

先人たちの生活の知恵たるやすばらしい。

山椒の芽

母に煮物の季節来る　まり子

（筆者　上萩大治）

▽無断転載は、ご遠慮ください。

竜門の会

水底の日影ゆるがせ上り鮎　柳田　稔

城壁のにぶき日を這ふとかげかな　古江　重美

若葉風駅まで流す醪の香　恒吉　斗南

陽炎に目路の野山の揺れやまず　加藤　白柳

咲き満ちて花に残照残りけり　内田美津代

酒精計かすかに動き新酒生る　横山　江南

花曇り園児の列を母待てり　川上　節子

散る花を仰げばうすき昼の月　井之上透山

けまん草萩の古株に添ひて立つ　竹山　洋子

妻の大き扁平足や花疲れ　川崎　黒兎

摺鉢を子におさへさせ木の芽和　田代きよし

山桜とほき一山目覚めけり　高木　正男

しづけさや湖上をわたる雉子の声　上野　光

きんぽうげ今日の静脈注射終へ　鶴田　耕

心配ごと相談

毎週木曜日・午前中
福祉センターで。
お気軽にどうぞ…。

おしらせ

農林業労働者災害共済に加入を

五月は農作業安全月間です。農繁期に入り、農業機械などの事故も発生することが予想されます。

五十九年度までに事故報告のあったものだけで七十件を超え、事故発生も年々増えてきています。十分気をつけて作業しましょう。

また、農業機械・機具の始業点検は必ず実施しましょう。

農林作業中の万一の事故に備えて『農林業労働者災害共済』に加入しましょう。

▽**掛け金**

一世帯　四百円、一人　五百円

加入申し込みは、役場経済課で受け付けています。

●町農林業労働者災害共済の状況

年度	58年度	59年度
加入戸数	738戸	775戸
加入人員	1,409人	1,447人
事故件数	21件	23件
共済見舞金給支給額	809,898円	3,157,089円

「日本脳炎」の予防

「日本脳炎」は、日本脳炎ウィルスを持ったコガタアカイエカに刺されることによっておこる死亡率の高い法定伝染病です。

主な症状としては、突然の発熱から頭痛、吐き気、おう吐などを伴い、けいれんや異状な症状がしばしば現われます。

次のことに十分注意し、予防に努めましょう。

▽蚊の発生しやすい側溝や草むらなどをきれいにし、環境を整備しましょう。

▽接種対象者は、町で実施する予防接種を必ず受けましょう。

◎**接種対象者**

○三歳児、四歳児

○小学校一年生、四年生

○基礎免疫または追加接種を受けていない四歳から十五歳までの人

▽睡眠、栄養を十分にとり、体の抵抗力をつけておきましょう。

うぶ声

出生児　保護者　自治会

精松　洋平　栄人　井手向
松田浩一郎　美巳　上浜
日高　香織　壽人　西江口団地
近野　淳人　仁　岩原東
西　祐平　彰二　蔵王団地
大宮路　雄　修一　西塩入上
榎田さやか　洋一　赤坂
澤田　秀昭　修二　江湖
白石明日香　克明　下新道
古寺　睦美　広志　吉原
樗木　秀光　孝昭　下新道
濱田　愛美　一徳　豊町
宮永明日香　和平　蔵王団地
宮永　直美　和平　蔵王団地
山森　玲那　正邦　小陣
川村　勇樹　伸一郎　竹下
松下　智也　清文　柳田
原口　泉　正則　竹下

▽四月二十日までに住民票に記載された分を掲載いたしました。

ご寄付

香典返しのかわりにご寄付をいただきました。厚くお礼申しあげますとともに故人のごめい福をお祈りいたします。（　）内は故人。

＝**町社会福祉協議会へ**＝

二万円　須崎　湯川ヨシ子（夫　健　七二）
二万円　市来原　内村行男（母　ヨシ　八七）
一万円　田中　高橋ミワ（夫　栄治　七九）
五万円　西反土後　恒森一美（母ナカ　八〇）
二万円　岩原西　浜田スミ（娘ユミ子　五四）
二万円　今町　榎薗確（母　サダ　七三）
三万円　上木田　平静夫（妻　フヂ子　七四）
二万円　中福良後　田中清子（夫　功　五三）
五万円　端山　榎園京子（兄山下三郎　七九）
二万円　於里　新栄蔵（義母大谷セツ　七九）
二万円　浜村　土橋兼義（義父　大島恒夫　五七）
三万円　於里　森正二郎（父　満雄　七九）
二万円　岩原西　原口幸秀（妻　貞子　四六）
二万円　岩原西　岩元敬一郎（母　ミカ　八六）
一万円　新富団地　亀井フユノ（夫　忠利　八四）
二万円　中塩入　江畑大三（母　サト　八五）
二万円　須崎　平原チエ（夫　秀雄　七〇）
二万円　今町　西田勝治（父　順　八六）
二万円　天神　松田乙子（母　ミ子　七八）
二万円　高井田　福崎勲（母　フミ　七七）
二万円　川内　笹峯ミエ子（夫　春雄　五五）

＝**町育英奨学資金へ**＝

十万円　天神　瀬戸ルリ子（夫　久光　七一）
一万円　浜村　土橋兼義（義父　大島恒夫　五七）

▽四月二十日までのご寄付を掲載いたしました。

昭和60年度 健康診査・健康相談及び予防接種実施計画表

先に配布した計画表に誤りがありました。おわびして訂正します。（保健衛生課）

母子健診

毎月の10か月児健診は　8か月児健診

健康診査

母子健康診査は次のとおり

第2火曜日 13：00～14：30　8か月児
第3火曜日 13：00～14：30　3か月児
第4火曜日 13：00～14：30　1歳6か月児

健康相談

毎週月曜日　午前中は一般相談日です